



天河大辨財天社を参拝して

私の母校（高等学校）には修学旅行がない。卒業をして35年ほど経過したが、いまだに現役の学生も修学旅行に行くことができてない。そのような経緯があつて、幼いころから何となく神社仏閣に親近感を持つていた私が初めて京都を訪れることができたのは弁護士になつてからであり、奈良県を訪れたのも今回の天河神社への参拝が初めてであった。そして、残念ながら奈良の大仏にはいまだに参拝できていない。

本宮天河大辨財天社といい、その歴史は飛鳥時代まで遡る。その後、高野山の開山の前に弘法大師が參籠された経緯もあつたのであろう、唐から持ち帰った密教法具である「五テニ鈴」などの数々の遺品が納められている。

滋賀県竹生島の「竹生島神社」、神奈川県江の島の「江島神社」、広島県嚴島の「嚴島神社」の3つの神社を日本三大弁天と称されている。さらには、竹生島神社に参拝すると、立て看板に「黃金山大神」と大和国の「天川大神」(天河神社のこと)を加えて日本5大弁天と称する旨記載されている。

天河神社の主祭神は市寸島比売命(いちすこしまひめのみこと)とされていて、古事記によれば、天照大御神が天岩屋戸に身をお隠しになつた際、この市寸島比売命がちまきの矛(神代鉛をつけた矛)を手に持ち、天岩屋戸の前にて舞を舞い、その後、天岩屋戸が開かれたという神話に出ている。日本人である。このような経緯から、天河神社は芸事の上達に御利益があるとされ、また、心身浄化、体調不良の改善などの御利益も得ることができるとしている。

天河神社には不思議な言い伝えである。それは、天河神社といまだ絶対ない者は天河神社に辿り着くことができないという内容や、天河神社に付くと体調が悪くなっていく（身体浄化が始まっていく）などという伝えである。

私がこれまで御世話になつてき方々の中に病気に罹患した方などございました。そこで、体調不良の改善を利益とされている天河神社には是非拝したかった。天河神社が奈良県のでは有名なパワースポットであると書かれていて、その理由になつていていた。

関西国際空港からレンタカーに乗り天河神社に向かっていくと、徐々に道路が狭くなり、対向車線を走行していく車両に道路を譲り合ひながら走行していかなければならぬ場所である。カーナビがあつてもなかなか通り着くことが容易ではない場所である。天河神社はあつた。平成の御代もあり、カーナビがあつてもなかなか通り着くのが容易ではないのでどちらにせよ、さぞ参拝するのが難儀である。昭和の時代でいまだ道路も備されていないところが多々あつた年月を迎えようとしている現在では、さぞ参拝するのが難儀である。

あつたであるうと思われる。駐車場から境内に入り、龍の手水舎にて身を清めてから拝殿に向かって階段を一步一步とゆっくりと登つていく。すると、拝殿内にある「五十鈴」どころによれば、「円を描くようにぐるぐる回す」ように記載されていたが、一つひとつ鈴が大きく感じ、上手に回すことができなかつたかもしだれない。しかし、鈴の音はとても不思議な音色で深く落ち着くことができた。いま思えば、もつともつと五十鈴の前で時間を過ごせばよかつたとつくづく思う。次々と五十鈴を鳴らす参拝者の姿や五十鈴の音が奏てる余韻に身を委ねればよかつたと思う。

日々、何かに追われて後ろを振り向くこともできず、周りを注視することも叶わず、せわしく過ごしている。そのような日々に納得がいっているわけではないが、大きく変えることもできない。ただ、日帰りのわざかな時間の旅ではあつたが、天河神社から何かを引き継いで日々過ごしていることだけは確かのことである。